

大阪中之島美術館  
大阪府

大阪の歴史と文化を受け継ぎ、  
新たなアートの可能性へ

佐伯祐三を始めとする近現代美術では、国内有数のコレクションを誇る美術館。地域に開かれた「パッサージュ」としての建物などユニークな取り組みを紹介いたします。



佐伯祐三《郵便配達夫》1928年  
現在の大阪市北区に生まれた洋画家・佐伯祐三のコレクションにおいて第一級の規模と内容を誇る同館。大阪の実業家で美術コレクター・山本發次郎の遺族から、代表作33点を含む約60点が寄贈された。



大阪中之島美術館は、誰もが自由に入出りできるパブリックスペースが多いのが特徴的。左／駐車場屋上にある「芝生広場」。右／内部は立体的にくりぬいた構造の「パッサージュ（遊歩空間）」で、2階から4階への直通エスカレーターが交差する吹き抜け空間が印象的。

順番で建物を考えていったといいます。建物に入ってまず気付くのは、全フロアをつらぬく吹き抜け空間。長いエスカレーターを上った先にある展示室は、柱がないため広々とした印象を与え、作品の世界にゆったりと浸ることができそうです。

レストランとあわせて展覧会も、  
アートが身近になる場所へ

1階と2階には正面玄関がなく、複数の出入口があり、誰もが自由に出入りできる「パッサージュ（遊歩空間）」になっていることも大きな特徴でしょう。散歩の途中でひと休みする人がいたり、レストランやショップを目当てに来る人がいたり。そ

のついでに「面白そうな展覧会をやっている」と知って、ふらりと立ち寄ってくれる。そんな身近な存在としての美術館も目指しているのだとか。

身近ということでは、大阪ゆかりの近現代美術の作品も多くコレクションしています。江戸時代から文人画が盛んで、商家がパトロンとなって画家を育てた大阪。美大に通って展覧会に出品するというアカデミズム中心の東京の美術界とは一味違った、大阪ならではの美の世界に触れることも、新しいアートの体験となりそうです。

現在開催中の『テート美術館展』などの企画展も楽しめる美術館。この秋冬、アートの旅を満喫しに出かけてみてはいかがでしょうか。



ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》1957年  
山高帽の男の後ろ姿に、ボッティチェリの『春』を引用した、シュルレアリスムの巨匠・マグリットの作品。



アメデオ・モディリアーニ  
《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年  
世界に30数点しかないモディリアーニの裸婦像のうちの代表作。国内外から出品要請も多い人気の作品だ。

※本ページで紹介した作品は所蔵品です。2024年9月14日（土）～12月8日（日）に開催される「開館3周年記念特別展／TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」で展示予定。

大阪中之島美術館

住所 大阪府大阪市北区中之島4-3-1  
電話 06-6479-0550  
料金 展覧会により異なる  
開場 10:00-17:00(入場は16:30まで) 月休  
(祝日の場合は翌平日休) 展覧会により異なる  
交通 京阪中之島線渡辺橋駅より徒歩約5分、  
Osaka Metro四つ橋線肥後橋駅より  
徒歩約10分  
HP <https://nakka-art.jp/>

【開催中の展覧会】  
「テート美術館展 光 ― ターナー、印象派から現代へ」は、2024年1月14日(日)まで開催中。  
英国を代表する国立美術館テートから「光」をテーマにした名品約120点が一堂に会します。

お楽しみ周辺SPOT 歴史的スポットと大阪・秋冬の味を堪能

江戸時代後期に蘭学者・緒方洪庵が開き、福澤諭吉や大村益次郎らが学んだ「適塾」。大坂船場の町家の姿を示す貴重な建物は国の重要文化財に指定され、内部は洪庵が居住していた当時の姿に復元されています。秋冬の大阪おすすめグルメといえば、フグを使った「てっちり」。フグ独特のこりこりした食感、専門店それぞれが工夫をこらした自家製ぼん酢で味わいましょう。



適塾



てっちり

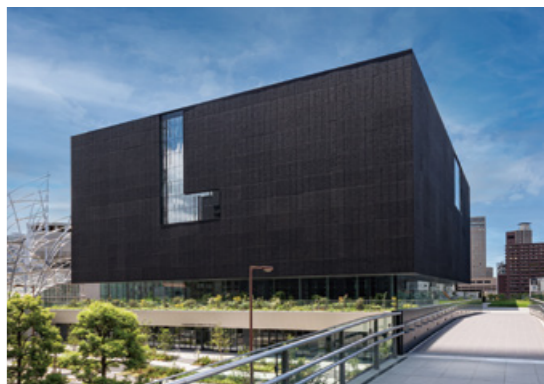
©(公財)大阪観光局

魅力あるコレクションに合わせた空間づくり

堂島川と土佐堀川に挟まれた、東西に長い中之島。明治期に建てられた図書館や中央公会堂など歴史ある文化施設と、現代的なオフィスビルが混在する、魅力的なエリアです。

そこに大阪市が近代美術館を作る計画を立ち上げたのは、約40年前のこと。財政難などの理由で計画が遅れる中、これからの時代、この地にどんな美術館が必要か、多くの議論が交わされました。

一つは、コレクションにふさわしい美術館について。当館は寄贈された佐伯祐三作品を中心に、長い準備期間の間にマグリットやモディリアーニの名品、近現代デザイナーの代表的作品の購入を進めてきました。まず建物ありきではなく、魅力あるコレクションに合わせて空間を作るとい



都市の景観に埋没しないように考えられた、漆黒のキューブが宙に浮いたような美術館外観。